

長寛 二年

「法眼」抄

能慶(二八三―二八五)

寿永 二年

「法印大僧都。寺。左大臣。五十七。四十七」(残)

元暦 二年

「法印大僧都」。兼。密。五十九。四十
九」(残)

能算(二〇七)

承暦 三年

大威儀。七月十六日。蒙賜宣旨。興福寺
僧綱已講等。中宮御座參賀日也(裏書)

能聖(九七)

貞元 二年

豎者。

能智(二六四)

長寛 二年

「法眼」抄

能珍(二八三―二八五)

寿永 二年

「園城寺住学生。少将阿。四十七。学
頭慶智」(残)

元暦 二年

「住学生。四十八」(残)

能範(二〇八)

寛治 元年

豎者。四十四。前越後守橘通成子。智覚

能遍(二八三―二八五)

寿永 二年

「東寺灌頂。寿永二年十二月廿八日。
東寺始。観音院。依前大僧正御入□寿」
辞退了」(残)

元暦 二年

「少将。仁」(残)

八

梅桃惡法眼↓澄眞

飯室權僧正↓尋圓

飯室座主↓尋禪

範胤(二〇六―二〇八)

嘉承 元年

二年

尊勝寺灌頂。阿闍梨。延暦寺。
尊勝寺灌頂。

權律師。五月廿三日任。蓮台寺阿闍梨。

「天台宗。延暦寺灌頂」(水)

「八十」

天永 四年

範永(二八三―二八四)

卒。四月廿四日。「八十三」(水)

寿永 二年 「法橋。熊野。佐野。行範子」(残)

三年 「(法橋)」(残)

範延(1041-1121)

長治 元年 始自八月一日御筆法花御八講。聴衆。

園城寺(裏書)

天永 二年 堅者。〔卅三〕(裏書)

範雅(1121-1184)

寿永 二年 「三會。中納言。十八年。寿永二年三

會。維摩」(残)

三年 「(三會)。興。十九」(残)

範快↓快範

範覺(世豪。世毫。世好)(1127-1144)

大治 二年 東寺灌頂。阿闍梨。「小阿闍梨」(水)

三年 東寺灌頂。「小阿闍梨」(水)

五年 權律師。十月廿五日任。法金剛院供養

賞。仁和寺御室讓。改名世豪。「正月

十四日任。真言宗。仁和寺」(水)

長承 元年 (世毫)

保延 二年 (六十一。仁)

三年 權少僧都。五月廿一日転任。〔六十二〕

(世好)。「五月廿七日転任。東寺灌頂勞。

過巡追被賞。(世毫)」(水)

七年 法印。八月六日叙。御室讓。院御発心地

孔雀經御修法賞。

(法印)。(六十七)

範覺(1133)

天承 二年 「五月廿七日僧事。阿闍梨九人。寺六

人ノ内(裏書)」(水)

範經(1056)

天喜 四年 堅者。〔廿一。伊与守藤邦恒子〕

範經(1100)

康和 二年 講師。十月七日宣旨聴衆定次。〔三井〕

(前項ト同一人カ)

範慶(1083-1097)

永保 三年 二會講師。延暦寺。横川。〔四十九〕

応徳 三年 (權)律師。十一月十一日任。〔二會。伊

与守平範国子〕

寛治 五年 卒。七月八日。大内御修法壇所頓滅。〔五

十六〕

範慶(二八五)

元曆 二年

「法橋。同(正月十三日叙)。山。土左。里。卅二。十五」(殘)

範玄(二八三・二八五)

寿永 二年

三年

「少僧都。伊賀。興福寺学頭。権少僧都。四十七。卅三。安元二年三会」(殘)
「少僧都オヨビ前僧綱律師ノ項ニモ見ユ」(殘)

元曆 二年

「大僧都。正月十三日任。四十九。卅五。任覚。権大僧都」(殘)

範嚴(二三〇)

大治 五年

堅者。(七十一。辞退)(裏書)

範算(二三二・二三四)

天治 二年

法橋。十月廿三日叙。大僧正讓。前斎院加持賞。歳五十九。「十月廿二日叙」(水)

保延 二年

永治 二年

(三井。七十)
(法橋)。(七十七)

範實(二四・二三五)

天治 元年

堅者。(五十九)(裏書)

保延 元年 南京講師。辞退。(覚繼ニ替ル)

範守(二八・二三三)

永久 六年

元永 二年
保安 四年

尊勝寺灌頂。阿闍梨。寺。八十二。三月日賜請了。「小阿闍梨。三井寺」(水)
尊勝寺灌頂。阿闍梨。「小阿闍梨」(水)
「死」(水)

範春(一〇三・一〇五)

康和 五年

法橋。七月廿五日叙。興福寺供養柱繪賞。絵仏師(裏書)

長治 二年

(法橋)(裏書)

範俊(一〇九・一一三)

寛治 六年

嘉保 二年

法橋。五月十六日叙。院御修法勞。権少僧都。十二月廿八日任。源信以後絶無其例。希代事也。

康和 二年

七月七日為興福寺権別当。依宣旨。被本寺挙云々。奇代例也。

四年

五年

(権)大僧都。五月十三日任。法印権大僧都。七月廿五日叙。興福寺供養賞。依為権別当。

長治 元年

六月卅日為東寺長者兼興福寺權別當。
奇代例也。

二年

五月廿九日兼法務。

天仁 二年

權僧正。三月廿九日任。

天永 二年

「去十二月廿四日兼官等辭退。正月十一日還任山階權別當」(水)

三年

入滅。四月廿四日。七十五。「自鳥羽入曼荼羅寺之間於途中卒」(水)

範舜(二〇一二六)

天永 元年

「法橋。絵」(水)

永久 四年

「死。月日」(水)

範昭(二〇五一一〇六)

永承 六年

堅者。(五十四)

承保 三年

講師。辭退。興福寺。(俊範ニ替ル)

範心(二〇四)

長治 元年

始自八月一日御筆法花經御八講。聴衆。園城寺(裏書)

範晴(二一五)

元暦 二年

「法橋。十五出。興。中納言。卅四。

廿」(殘)

範靜(二〇九〇)

延久 二年

堅者。(卅七)。円尊辭退替。

範增(二〇九一一二〇四)

寛治 五年

法橋。十月三日叙。祇園行幸賞。社別當也。

長治 元年

(法橋)

範增(二二八一二八四)

寿永 二年

「法橋。熊野。富田。長範子」(殘)

三年

「(法橋)」(殘)

範尊(二二八一二八六)

元永 元年

「法橋。閏九月廿三日叙。院御熊野詣權別當賞」(水)

大治 元年

「熊野」(水)

範尊(一與)(二二八一二八四)

寿永 二年

「法橋。熊野」(殘)

三年

「(法橋)。(範与)」(殘)

範智(二二八一二八五)

寿永 二年
元曆 二年

「法橋。寺。六十六。五十二」(殘)
「十月卅日卒。六十八。五十四。里。
越後」(殘)

範命(二八三二八四)

寿永 二年
三年

「法橋。熊野。前在庁」(殘)
「法橋」(殘)

範祐(二三八二二〇)

大治 三年

「九月廿八日於法勝寺小塔供養・十月
廿二日於石清水宝前被供養一切経。威
從四人。威(裏書)」(水)

大治 五年

「十月四日延曆寺惣持院供養・同十月
廿五日法金剛院供養。威從。威(裏書)」
(水)

範與↓範尊

ヒ

百光房↓慶暹

標瓊(七六七七七)

神護 元年
景雲

「中律師。或本無之」(七)

宝龜 元年

中律師。

二年 (中律師) 可尋。

品惠(二二)

弘仁 二年

維摩講師。法相宗兼三論宗。法隆寺。

敏覺(二六四)

長寛 二年

「權律師」(抄)

フ

付覺↓什覺

扶公(九五二〇三)

長徳 元年

堅者。(卅二)

長保 五年

法橋。十二月廿九日依元興寺別当能治賞

被叙。法相宗。興福寺。真言僧正入
室。左門督藤重扶子。(卅八)。「十二
月卅日叙」(水)

寛弘 三年

「或本。法橋。十二月廿六日任」(水)

四年

講師。第五日。蒙宣旨奉仕之。(清春受
病ノ替リ)。「今年三會講師。四十二。(裏
書從第五日朝座依宣旨扶公法橋為講
師。年四十二。法相宗。東寺。十月十

三日宣旨。御齋会・最勝会同勤了」(水)

八年

「四月廿七日任興福寺權別当。超律師

林懷・明憲等二人任之」(水)

長和 三年

權少僧都。十月廿八日任。不經律師。(四

十九)

寛仁 元年

少僧都。十二月廿五日転正。(五十二)

治安 元年

權大僧都。十月十五日転任。春日行幸次。

興福寺別当故也。(五十六)

万寿 二年

補興福寺別当。(六十)。「六月廿七日

補」(水)

長元 元年

辞退。十二月廿七日。(六十三)

四年

法印。十月廿日叙。(前權大僧都)。興福寺

御塔供養日。依為寺家別当也。(六十

六)。「廿八日叙。法印還大僧都。(裏書

依能治別当有二恩者。任本職。次叙法

印云々」(水)

六年

「探題」(水)

八年

「頓減。七月七日。七十)。「興福寺治十

年」(水)

扶邦(101B)

長和 三年

堅者。興。(卅八。若次年歟。勅使右中

弁重尹」

普賢院僧都↓隆圓

福亮(六五)

推古卅三年
天皇卅三年

「僧正。吳人。熊凝氏。本元興寺。維摩

会縁起云。大織冠内大臣。以齐明天皇

四年。於山科陶原家。囑福亮法師。為講

匠云々」(抄)

文慶(1007-1014)

寛弘 五年

權律師。四月廿四日任。今上女二宮御惱

間。御修法賞。天台宗。延曆寺。智弁

僧正弟子。民部卿文範孫。(左兵衛佐

藤助雅三子)。「四月四日任。或本廿四

日。年四十二。右兵衛佐助雅男。或本

文範民部卿息。住所石藏。法名大雲

寺。(裏書)或記云。依今上二宮悶絶加

持令蘇生賞也」(水)

八年

律師。四月廿七日転正。(四十五)

長和 三年

權少僧都。十月廿八日転任。(四十八)。

「護持勞」(水)

寛仁 三年

「少僧都。十月廿日転」(水)

治安 三年 權大僧都。十二月廿九日転。〔五十七〕
万寿 元年 辞退。五月日。依病。〔五十八〕

長曆 二年 法印。六月十八日叙。元前大僧都。〔七
十二〕

永承 元年 〔入滅。七月二日。八十〕

文源〔二〇五〕

天喜 四年 堅者。〔五十二〕

聞實〔二三〕

大治 四年 〔十月廿八日僧事。阿闍梨宣旨五人。
相命僧都解文。元慶寺〔裏書〕〕〔水〕

へ

平叙〔九七九〕

天徳 元年 講師。三月廿八日宣。天台宗。延曆寺。

〔五十八〕

二年 入滅。二月十日。仍最勝会以済源為講師。

平恩〔六五八〕

貞観 七年 講師。三論宗。西大寺。

十六年 律師。十二月廿九日任。已講勞。

元慶 七年 少僧都。十月七日転任。

仁和 元年 大僧都。十一月廿二日転任。

五年 入滅。正月廿六日。

平含〔九五〕

天曆 九年 堅者。

平見〔九三〕

応和 二年 季御読経御前僧不参。平見・明昨二人
不可参。依有不潔之聞云々〔裏書〕

平叙〔九四〕

延長 二年 堅者。〔三會定一記〕平叙

平源〔九六九〕

延喜 六年 堅者。

延長 二年 講師。去年十月廿五日宣。法相宗。興福

寺。伊勢国人。麻統氏。〔六十三〕

承平 元年 權律師。十月廿七日任。已講勞。〔平恩
僧都弟子。七十一〕

五年 律師。十月十二日転正。〔七十五〕

天慶 元年 權少僧都。八月廿七日転任。〔七十八〕

三年 少僧都。十二月十四日転正。〔八十〕

八年 大僧都。十二月廿九日任。〔八十五〕

天曆 三年 入滅。五月二日。〔八十九〕

平好(五三九)

延喜 二年 堅者。

十八年

講師。去年閏十月三日宣。法相宗。興福寺。(六十四)

平秀(九二七)

延喜十七年 堅者。

平昇(九三〇)

延長 八年 (講師。辞退)。(基高二替ル)

平仁(八八六)

仁和 二年 講師。法相宗。東大寺。

(裏書)依興福寺・薬師寺解文。維摩・最勝二会各加本制。堅義者一人用学智優長之才。当寺僧頭学皆加精琢。撰□中全勿令濫吹者云々。

平仁(九七二)

天禄 三年 堅者。

平勢(八七〇・八七三)

貞觀十二年

權律師。十二月廿九日任。化他宗。薬師寺。俗姓船連。右京人也。承和御代御

導師也。受戒師豐安。仕公年久。今身

沈重病。起居失便。聞食之憐給。殊被

恩賞者。(七十)

十四年 入滅。十一月十日。(七十二)

平濟(九一九)

延喜十九年 堅者。

平智(六六一・八八三)

貞觀 八年 講師。法相宗。薬師寺。

十六年

權律師。十二月廿九日任。已講勞。(仲繼律師弟子。七十七)

元慶 七年

入滅。八月十七日。(八十三)

平超(九四一・一〇〇七)

正曆 五年

講師。四年十二月十五日宣旨。三論宗。薬師寺。(六十八)。「臘五十二。平城

左京人。安鏡僧都在俗時子。安鎮資。

(裏書)奈良補任云。祥超五師弟子。安

鏡僧都在俗時者(水)

長保 二年

權律師。八月廿九日任。已講勞。三論宗。東大寺。(安鏡僧都弟子。文屋氏)。「年

七十四。臘五十八(水)

寛弘 三年 「或本十二月十二日卒」(水)

四年 講師。第三日朝座。(清春受病ノ替リ)

入滅。十一月十六日。「同上卒。或本明年卒」(水)

平傳(九三—一〇四)

応和 三年 堅者。

永祚 元年 講師。去年十月廿五日宣旨。法相宗。興

福寺。(六十九)。「年六十七。或七十。

六十九。二年十二月廿六日宣旨。平城

京。左京人」(水)

長徳 元年 権律師。十月七日任。已講勞。(大和国人。

大中臣氏。七十五。昌観威儀師弟子)。

「年七十四。神祇少副大中臣理明男」

(水)

長保 四年 権少僧都。七月廿六日転任。

寛弘 元年 入滅。八月廿九日。(八十四)

平等院大僧正↓永圓・行尊

平等房和尚↓延昌

平能(二〇二—二〇三)

治安 元年 講師。五月八日宣旨。法相宗。東大寺。小

野時相男。(七十一)。「法蔵僧都弟子」

(水)

長元 元年 権律師。十二月卅日任。已講勞。(七十

七)

二年 「或本今年任権律師」(水)

六年 律師。十二月廿二日転正。(八十二)

七年 辞退。月日。濟慶譲与了。(八十二)。「十

月日辞退。後日卒。八十」(水)

八年 「入滅。月日。八十四」。前律師。

平遍(九三)

延長 五年 堅者。次。

平法(八三)

承和 五年 講師。三論宗。大安寺。

平明(九五)

天曆 九年 講師。辞退。(房算ニ替ル)

遍敷(南山房僧都・無動寺僧都)(九三—九七)

天延 元年 権律師。十二月廿二日任。天台宗。延曆

寺。御修法之次被任。内大臣宣。(左

京人。王氏。相応和尚弟子)。「年六十

九。臘五十五。慈念僧正受法。左京人。

王氏。延喜廿二年五月八日得度。天德四年八月九日依延昌僧正奏為延曆寺阿闍梨。康保四年三月廿八日任法性寺座主。安和元年三月十一日補內供奉十禪師。無動寺。(裏書)彼遍數律師行狀記云。天延元年八月四日於仁壽殿率廿口伴僧奉修熾盛光法。而御修法奉仕之間靈驗殊顯現。同十三日御結願御加持被物之次。主上勅語云。前々聞食驗德之內。極熱之比頻奉仕御修法。感応多端。仍雖無其欠治賜權律師(師)法橋上位者。時年七十二。臘五十二。十六員外律師(水)

遍救(〇三二一〇〇〇)

治安 元年 權律師。五月廿七日任。天台宗。左京人。

〔覺忍僧都入室〕。〔長保三年十一月一日依明蒙僧正奏為惣持寺最初阿闍梨。雲林院門跡并靜慮院門徒。或云。北野別当法橋是算真実弟子云々〕(水)
 万壽 元年 權少僧都。十二月廿六日轉任。北野行幸日。依別當被賞。

長元 元年 少僧都。十二月卅日轉正。
 三年 〔入滅。十月十二日〕

遍昭↓遍照

遍照(昭・花山僧正)(六〇八六〇)

嘉祥 二年 〔今年三月廿八日左近少將良峯宗貞出家。卅五。遍昭僧正也〕(抄)

貞觀十一年 法眼。二月廿六日叙。天台宗。大納言良峯安世息。慈覺大師弟子。(五十四)

元慶 三年 權僧正。十月廿三日任。(六十四)

三年 少僧都。十月十五日轉任。〔超律師之上

六人。延曆寺。真言宗。太政大臣七月

之比病惱之間有驗被補。同十五日大相府諸卿共議云。良房御惱之時。以凡僧一演任僧正。吾雖有大相國之号有憚。

不補僧正。但弃權字。同十五日任少僧都云々(抄)

四年 〔卒。六月廿九日。七十五。号南山房

遍照寺僧都↓清壽

遍陳(元・一九九)

天元 四年
長保 元年

堅者。

講師。八月廿三日宣旨。法相宗。興福寺。
〔六十五〕。(暹日辭退ノ替リ)。「年六十。
イ本六十五。臘四十八。藤氏。左京人。
助精已講弟子。(裏書)廿三日宣。同廿
六日請了。暹日辭退替大法師遍陳(水)

辨雅(二・三・二・八五)

壽永 二年

「法眼。山。大納言。四十九。卅七冬。
法印。上了(殘)

元曆 二年

「(法印)。密。五十一。卅九冬(殘)

辨覺(大夫阿闍梨)(二・三・二・四三)

大治 四年 天台講師。延曆寺。「二会。九月十九日

宣。天台宗。依為右京大夫公房孫。号

大夫阿闍梨(水)

保延 四年 權律師。十月廿六日任。臨時朝恩。(故

兵部大輔通輔子)

永治 元年 權少僧都。十一月廿四日。二会講師勞。

二年 (權少僧都)

(裏書)貞觀十一年二月廿一日叙。法眼。

元慶三年十月廿三日任權僧正。年六十

五。天台宗。元法眼直任歟。嘉祥三年

三月廿八日出家。元從五位下左近少將

良峯宗貞也。以去廿一日仁明天皇崩。

依先皇寵臣。婦弘報恩。任僧正宣命云。

自東宮之時。朕身相□奉事有等□□□

□一渲僧正受法弟子云々。大納言良峯

安世第八子。

仁和 元年 僧正。十一月廿二日。同十八日於仁壽

殿賜七十賀。

二年 三月十日給百戶封。

寬平 二年 入滅。正月十九日。(七十五)。「承和十

一年補藏人。嘉祥二年正月任左近衛權

少將。三年三月廿一日天皇晏駕。宗貞

先皇之臣寵也。崩後哀慕。婦三教以來

報恩。廿八日出家為僧。齊衡二年五月

十二日上叡山。座主慈覺大師為伝戒師

受苦薩戒。貞觀五年冬於大師辺習真言

法。其後於智証大師処聽習三部大教。

号花山僧正(抄)

辨寬(二八三)

壽永 二年

「野伏。大進。伊与国下□」(殘)

辨曉(二八三-二八五)

壽永 二年

「律師。東大。大夫。四十五。卅六。

承安三(年三舍)」(殘)

元曆 二年

「少僧都。八月廿八日。東大寺。尊勝院。四十七。卅八。十八」(殘)

辨重(二八三)

壽永 二年

「野伏。出雲」(殘)

辨昭(二九一-二九二)

文武天皇 二年

「律師。三月日任」(抄)。「十二月□任云々。或本大宝三年正月任少僧都。不

歷律師云々」(七)

大宝 二年

「少僧都。正月十五(四イ)日任。或本直任」(七)

和銅 四年

入滅。月日。「今年入滅。或辞退云々」(七)

辨正↓辨靜

辨靜(一正)(七二七-七三六)

靈龜 三年

少僧都。七月廿一日任。「補任之所注弁正。而官書事類注弁靜」。「三論宗。春日氏。東大寺造畢之後移住。(弁正)」(七)

天平 元年

大僧都。十月七日任。「東大寺」(七)

二年

僧正。十月四日任。

辨然(二八三-二八四)

壽永 二年

「法橋。山。教嚴房。七十二。五十九」(殘)

三年

「九月六日入。七十三。六十」(殘)

辨宗(二八四)

長寬 二年

「法橋」(抄)

辨宗(二八三-二八五)

壽永 二年

「法眼。寺。武藏。五十六。五十」(殘)

元曆 二年

「(法眼)。里。五十八。四十二」(殘)

辨忠(二八三-二八四)

壽永 二年

「延曆寺住学生。土学屋□。六十四。四十八。学頭真覺」(殘)

三年

「(住学生)。本学□阿。六十五。四十九。

学頭貞覚〔残〕

辨通(七〇五・七二)

慶雲 二年

〔律師〕〔七〕

和銅 五年

少僧都。九月十五日任。不經講師歟。〔或

本大宝二年任律師。今年□□□□〕〔七〕

靈龜 二年

去職歟。可尋。

辨猷(二八三・二八五)

寿永 二年

〔法橋。寺。和光房。五十八。卅九〕

〔残〕

元暦 二年

〔法橋〕。里。和光院。六十。四十一〕

〔残〕

木

輔靜(1006・1012)

寛弘 五年

研学。薬師寺。法相宗。

万寿 四年

講師。去年十月廿八日宣。当寺別当并階

業准用興福寺階業。〔勅使右中弁経輔。

五十八。藤氏〕

菩提(七六五・七六〇)

天平 八年

来朝。七月八日。菩提僧正從西天竺来

天平 三年

撰州国。林邑桑菩提從此伝之。

僧正。四月廿二日任。大安寺。西天竺国

人。婆羅門姓。〔南天竺伽毗羅衛国人也。

姓婆羅門。名菩提。為奉拜文殊自天竺

到大唐五台山。即老翁逢道。告云。文

殊為利生託生日本国。仍菩提為遂本懷

追来日本国也。即行基菩薩奏天皇相迎

於難波。天平八年七月八日到來摂津

国。行基迎之入宮。時聖武天皇勅之住

处。巡礼諸寺住機縁处。仍菩薩巡礼次。

留住大安寺東僧房南端小子房。後尋住

处給官額。曰菩提僧正院云々〕〔七〕

天平 四年

入滅。二月廿五日。〔来朝已後廿八年。

僧正治十年〕〔七〕

法縁(九六九・九七二)

安和 二年

講師。〔天台聖教辭退替〕。九月廿六日宣。

三論宗。東大寺。〔六十三〕。〔十六日

宣旨。臘四十三〕〔水〕

貞元 二年

權律師。六月十六日任。已講勞。〔延儼

僧都弟子。七十〕

天元 二年

〔權律師。十二月廿一日任。年七十一。

臘五十。少僧都基高弟子。元定額。山城國人。惟宗氏。(裏書)延徹僧都弟子。

天元元年任醍醐座主(水)

四年 律師。十月廿二日轉正。「廿一日轉。七

十三(水)

入滅。月日。

法海房僧都↓長勇

法基(九五)

天曆 五年 堅者。次。

法義(七七)

宝龜 三年 内供奉十禪師。三月丁亥(裏書)

法興院僧正↓明豪

法纂(九六)

康保 四年 堅者。次。

法秀(九八)

永延 元年 講師。花嚴宗。東大寺。(六十六)。(常晴

死去ノ替リ)。「四月十一日宣旨。年六

十八。臘五十五。伊賀國人。名祐律師資。(裏書)伴常晴死去。今年三月十六

日宣旨。四月十七日請大法師法秀(水)

法秀↓法修

法修(一秀)(九六二〇六)

長德 四年 堅者。(廿七)

長和 五年 講師。五月十六日宣旨。法相宗。興福寺。

〔庚便死欠。四十五〕。「年卅五。或本四十五。平氏。或本法修。(法秀)(水)

法如(九八)

永觀 元年 堅者。次。

法淨(七七)

宝龜 三年 内供奉十禪師。三月丁亥(裏書)

法眞(九八)

天元 四年 堅者。次。

法進(七五七六)

勝宝 八年 律師。五月廿四日任。律宗。東大寺。俗

姓王氏。義陽王也。王道之後也。申州人也。住楊洲白塔寺。鑒真弟子也。

僧綱員位階並僧位階事。大僧都良弁。少僧都慈訓。律師法進等奏(裏書)

天平 二年

天平二年 「少僧都。七月任」〔七〕

神護元年 「或本權律師」〔七〕

景雲元年 少僧都。

寶龜元年 大僧都。二月廿四日任。

五年 入滅。九月廿九日。「七十。或本律師云

々。鑒真弟子。本朝戒和上初也。仏国寺本願」〔七〕

法仁↓法忍

法性房座主↓尊意

法性房僧都↓圓賀

法勢〔八七〕

貞觀九年 講師。天台宗。延曆寺。三会被始行之後。

卅四年始天台宗講師奉仕之。

法藏〔九六〕〔九九〕

天德四年 講師。去年十月十七日宣。法相宗。東大

寺。〔五十五〕

康保元年 權律師。七月廿日任。已講勞。〔寛救僧

都弟子。五十七〕。左京人。藤氏。

三年 律師。十二月廿六日転正。〔五十九〕

安和元年 權少僧都。三月十一日任。〔六十一〕

二年 入滅。正月三日。〔六十二〕。〔六十五〕

〔水〕

法忍〔一七〕〔九七〕〔九五〕

永延元年 權律師。十二月廿七日任。天台宗。延曆

寺。〔天慶四年四月十一日得度。故座

主大僧正法印大和尚慈慧弟子。寛和二

年十月十三日依權僧正尋禪奏為慧心最

初阿闍梨。法興院別当請入阿闍梨。〔法

仁〕〔水〕

永祚元年 權少僧都。五月七日転任。

正暦五年 「五月一日卒。或本長徳元年卒」〔水〕

長徳元年 入滅。五月一日。

法隆〔一〇一〕

寛弘八年 堅者。

法輪院僧正↓源泉

法蓮〔九四〕

天延二年 講師。去年十月十七日宣旨。三論宗。東

大寺。〔六十五〕。〔年六十六。臘四十

七。平氏〔水〕

芳慶(九〇)

永祚 二年 堅者。『三會定一記』等董慶

芳算(〇一〇・一〇四)

寛仁 四年 堅者。〔興。卅三〕
長久 四年 講師。法相宗。興福寺。但維摩会后死去了。仍後二会以円縁律師被行云々。〔朝
寿辞退ノ替リ〕

峯敷(六五九〇)

寛平 七年 権律師。十一月十六日任。真言宗。東寺。

昌泰 元年 東寺別当。

延喜 二年 律師。三月廿三日転正。

五年 少僧都。八月八日任。

八年 入滅。四月廿九日。

峯基(六三八九七)

元慶 七年 講師。法相宗。元興寺。

寛平 二年 権律師。十月二日任。已講勞。

五年 律師。十月十一日転正。

九年 入滅。三月十一日。

峯契(寄一)(六九)

天曆 三年 堅者。次。『三會定一記』峯契

豐安(八二八四・八四二)

弘仁 七年 律師。五月十日任。律宗。招提寺。參河
國人。

天長 四年 少僧都。五月廿八日任。

承和 二年 大僧都。三月十一日任。

七年 入滅。九月十三日。

八年 贈僧正。

豐榮(七〇八四)

貞觀十二年 講師。法相宗。興福寺。〔六十〕

十六年 権律師。十二月廿九日任。已講勞。〔六
十四〕

元慶 八年 入滅。月日。〔七十四〕

豐藝(六七八四)

仁和 三年 講師。花嚴宗。東大寺。

寛平 五年 権律師。十月十一日任。已講勞。〔七十
三〕

六年 入滅。十月六日。〔七十四〕

豐秋(九三)

正曆 三年〔豎者〕

豐忠〔六六八六九〕

仁和 二年 權律師。十二月廿八日任。法相宗。兼化

他宗。興福寺別當能治賞。

寬平 元年 入滅。月日。

豐明〔八三三〕

承和 二年 維摩講師。法相宗。元興寺。

房延〔九元〕

延喜十九年 講師。死去。〔円超ニ替ル〕

房覺〔二六四〕

長寛 二年 〔權少僧都〕〔抄〕

房覺〔二八二二八四〕

寿永 二年 〔僧正。寺。一安寺。七十三。五十九〕

〔殘〕

三年 〔六月廿五日入滅了。七十四。六十。〕

〔マ〕〔殘〕

房算〔九五九六七〕

天曆 九年 講師。去年十一月廿三日宣。天台宗。延

曆寺。〔東大寺平明之替。天台探題始

人。六十五〕

応和 元年 權律師。十二月廿八日任。已講勞。〔智

証門人〕〔抄〕。靜觀僧正弟子。〔六十三〕。

〔此時極樂寺〕〔抄〕

康保 元年 律師。七月廿日転正。〔六十六〕

三年 權少僧都。十二月廿六日転任。〔六十八〕

四年 辞表。九月廿六日進。籠居天台南山。

〔六十九〕

〔裏書〕進辞表。籠居天台山南山極樂寺。

下薦良源律師被補座主。仍懷惡心死去。

延長四年六月十九日主上有御藥。是件

靈云々。故贈僧正法印大和尚位者。〔或

云。賀静申也。可尋之〕

房忠〔八二八三〕

元慶 六年 講師。法相宗。興福寺。

七年 權律師。十月七日任。□□□□基秀□□

海安等任之。已講勞。

仁和 元年 律師十一月廿二日転正。

二年 興福寺別當。治二年。

寬平 四年 少僧都。十二月廿二日任。

五年 入滅。七月廿七日。

穆算（一乘寺僧都）（六十一〇〇）

天元 四年 權律師。十月廿二日任。天台宗。延曆寺。

一乘寺。左京人。運昭内供入室。「依

天皇□習被任。無指德。余慶弟子」抄。

「十月廿一日任。年卅八。臘廿四。智

証大師門徒。阿闍梨。天元□年月日補

内供十禪師智興死欠替。同年月日為觀

音院最初阿闍梨。權少僧都余慶奏。天

德三年八月廿日得度受戒。智証大師玄

弟子。□管内供孫弟子。運昭内供弟子

也。經雲林院供僧」水

永觀 二年 權少僧都。八月八日轉任。〔四十一〕。超

五人」水

永祚 元年 少僧都。五月七日轉正。

長德 四年 權大僧都。十月廿四日轉任。〔十二月廿

九日任。或本十月廿四日任〕水

大僧都。十二月廿九日轉正。

寬弘 元年 〔六十一〕。穆算

五年 入滅。十二月廿六日。〔六十五。号一乘寺

僧都〕水

本覺房座主↓遍賀

マ

滿緣（二〇三四）

万寿 元年 堅者。東。三論宗。

ミ

妙玄（二〇二一〇三）

長和 元年 堅者。興。〔卅六。勅使右少弁資業〕

長曆 二年 講師。六月十五日宣。法相宗。興福寺。

〔六十二〕

民勢（八八）

仁和 二年 研学堅義。律宗。興福寺。〔緣起云。有

殊勅命。更増当寺堅義一人。□道二人

也。今年研学堅義始也〕

ム

無空（九二六九三）

延喜十六年 權律師。四月五日任。真言宗。東大寺。

内供勞。橘氏。

廿一年 入滅。六月廿六日。

無動寺僧都↓遍敷

メ

名祐(元禄九六二)

天徳 二年

権律師。十二月廿七日任。律宗。東大寺。内供勞。(八十)

四年

応和 元年

律師。八月九日転正。(八十三)
入滅。二月十八日。往生極楽云々。(八十四)

命源(二三五)

天治 二年

天台講師。阿闍梨。山。廿七。不遂最勝会死去。

命清(二八三二八五)

寿永 二年

「法印。八幡。最清出。号常葉」(残)
元暦 二年 「法印」。最清子。四十。廿七(残)

明壹(七〇)

宝亀十一年

維摩会講師。法相宗。東大寺。「或本云。宝亀十年」(七)

明印(二八三二八五)

寿永 二年

「定額。山。法橋。堯勝房。御導師。
(七、八)
八十。六十九(残)

元暦 二年

「(法橋)。顕。幸勝房。八十二。七十
三(残)

明因(〇六九)

寛治 三年

講師。正月十四日拜。天台宗。延暦寺。
(六十)

明雲(二八三)

寿永 二年

「大僧正。山。座主。十一月十九日。
六十九。五十九(残)

明圓(二八三二八五)

寿永 二年

「法眼。仏師。木。三条。忠円子(残)
元暦 二年 「法眼」(残)

明王(二二四)

長寛 二年

「法印」(抄)

明雅(二二九)

大治 四年

「十二月廿九日僧事。阿闍梨宣旨十三
人。山七人ノ内。円宗寺定範替。権少
僧都忠尋解文(裏書)」(水)

明快(〇三七一〇六五)

長暦 元年

権律師。五月廿五日任。天台宗。延暦寺。

長久 四年 御持僧勞。(文章生藤俊宗子。五十二)
權少僧都。十二月廿八日転任。御持僧重

朝恩。(五十八)

永承 五年 權大僧都。十二月卅日転。(六十五)

七年 十月十日兼法性寺座主。(六十七)

天喜 元年 十月廿九日補天台座主。兼法成寺別当。

(六十八)

二年 法印大僧都。十一月廿九日転並叙。(六十九)

十九

三年 僧正。六月十六日転。(七十)

五年 大僧正・僧正兩人三月十四日賜封五十

五戸。東北院新堂供養賞。「同日同賞。

(三月十四日法成寺八角堂供養。導師)。賜

五十戸」(抄)

康平 三年 辞表。六月日進了。

大僧正。十二月廿七日転。(七十五)

治暦 元年 辞表。月日上。讓覺尋云々。(八十)

明海(二二六-二五)

保延 二年 南京講師。八月日宣旨。東大寺。三論宗。

(卅二)。興福寺宋延・東大寺□覺辞退。

並興福寺俊源障替)

六年 維摩講師。第五日朝座。已講。聴衆。東大

寺六人ノ内。精義□□朝座勤之(裏書)

仁平 二年 「三月七日仙院五十御賀。堂達。明海

已講」(抄)

明懷(二〇三-二〇五)

万寿 四年 豎者。興。(勅使右中弁経輔)

長暦 三年 講師。七月卅日宣。法相宗。興福寺。(五

十二)

永承 五年 權律師。十二月卅日。已講勞。(六十二)

天喜 三年 權少僧都。六月十六日転。(六十六)

康平 三年 六月十六日補興福寺別当。(七十二)

五年 辞退。八月日。所帶職了。(七十三)

延久 四年 入滅。十月五日。

明覺(二〇四)

長元 七年 豎者。興。(廿五)

明覺(二二六)

保延 四年 十二月廿九日阿闍梨廿人宣旨ノ内。法

金剛院御室挙(裏書)

明久(九〇-一〇〇)

天元 三年 豎者。(四十三)

正曆 四年 講師。去年十二月廿七日宣旨。法相宗。

興福寺。「年五十六。臘卅二。佐伯氏」
(水)

長保 元年 權律師。二月廿五日任。左大臣被參詣春日社日。依為寺家權別當被奏任。空暗

僧都入室。「又真喜僧正弟子。大和國人。(裏書)依為興福寺權別當任權律師也。彼日左大臣參春日。有競馬事。此次有此賞」(水)

寬弘 四年 「六月十八日卒。春秋六十五」(水)

三年 入滅。月日。

明教(淨土寺座主)(1000-1010)

長保 二年 權律師。八月廿九日任。天台宗。延曆寺。

有明親王息男。(慈念僧正入室。五十五)。「臘四十五。天曆十年九月四日得度受戒。永延二年十月十七日依座主慈仁權僧正奏為延曆寺阿闍梨。(裏書)真濟僧正後身云々」(水)

五年 權少僧都。十二月廿九日轉任。「卅日任。

年五十八。任日五。律師勞四」(水)

寬弘 元年 辞表。九月廿七日上。如源讓与。「五十

五)。「五月廿日上辞表」(水)

「十二月卅日。淨土寺樂音院申置阿闍梨三人」(水)

七年 權大僧都。八月廿一日任。元前權少僧都。

「六十五。辞退之後歷七箇年」(水)

八年 大僧都。四月廿七日轉正。「六十六」。

長和 二年 權僧正。十二月廿六日轉任。「六十八」

(裏書)十二月廿七日任。天皇即位以後耳目共不明也。仍尋有驗僧。蛭明救於仁寿殿。御修法結願夜。帝皇御夢。大僧都自左右耳日月共出。入帝御左右眼。覺悟後見色聞音。仍此賞任權僧正云々。

寬仁 三年 僧正。十月廿日轉正。九月日補天台座

主。「七十四」。「十月一日座主宣」(水)

四年 「入滅七月五日。七十五」。「或本十五(日)。

号淨土寺座主」(水)

明空(允空-1013)

正曆 四年 堅者。「卅四」

長和 二年 講師。二月十六日宣旨。法相宗。興福寺。

「五十六」。「年五十八。或本五十六」。

真喜僧正資。王氏〔水〕

明憲〔元六一〇二〕

寛和 二年

堅者。〔四十六〕

長保 四年

講師。三月十八日宣旨。法相宗。興福寺。

〔六十二〕。臘四十八。藤氏〔水〕

寛弘 七年

權律師。八月廿一日任。已講勞。〔伊勢

国人〕。故少僧都空晴入室弟并真喜僧

正弟子。住角院。元定額〔水〕

寛仁 元年

權少僧都。三月十五日転任。〔七十七〕

治安 元年

入滅。十月十四日。〔八十一〕

明玄〔二六四〕

長寛 二年

〔權少僧都〕抄〕

明源〔二三五〕

天治 二年

二會。天台宗。延暦寺。年廿七。民

部卿忠教子。当講卒。〔裏書〕不經最勝

一會。為疱瘡逝去畢。仍最勝會五箇日

之間以五人講勤之〔水〕

明源〔二四二〕

大治 五年

〔法橋。十月廿五日叙。法金剛院御堂

柱絵賞〔水〕

天承 元年 法橋。仏師。絵〔裏書〕

保延 七年 〔法橋〕裏書〕

明泉〔元六二九六三〕

応和 二年

堅者。〔三會定一記〕明泉、以下同〕

永観 元年

講師。二月十四日宣。法相宗。興福寺。

〔檜前氏。六十三〕。年六十二。臘四

十四。助精已講弟子。已講卒〔水〕

明豪〔法興院僧正〕〔元三二〇三〕

正暦 四年

權律師。十二月十七日任。天台宗。延暦

寺。〔參議源□子。慈恵大僧正入室。

四十〕。年卅六。臘廿八。修理亮守正

男。中納言兼輔孫。安和二年八月六日

得度受戒。天延元年三月十日依慈仁僧

正奏為慈徳寺最初阿闍梨〔水〕

長徳 二年

權少僧都。六月十七日転任。〔或本今年〕

〔水〕

三年

〔權少僧都。六月十七日〕〔水〕

四年

權大僧都。十二月廿九日転任。

長保 二年

權僧正。八月廿九日転任。〔四十三〕〔水〕

三年

僧正。十月十七日転正。臨時朝恩。十一

月十一日賜封戸百烟。

四年 大僧正。七月廿六日軫。

入滅。八月廿三日。(四十九)。「廿二日

卒。号法興院僧正」(水)

明昨(九六三)

応和 二年

季御読経御前僧四□外。明昨・平見二人不可参。依有不潔之間云々(裏書)

明算(九六三)

応和 三年 堅者。次。

明算(一〇五二一〇九)

長治 二年 大威儀師。五月廿九日任。

天仁 二年 「卒。五月十四日。六十三」(水)

明實(一〇二一〇九三)

永保 元年 「二会講師。延暦寺。五十□。今年大乘

会講師明実。五十六。快覺辞退替」

二年 律師。十二月卅日任。二会劣。「前肥前

守藤通範子。五十六」

寛治 六年 卒。七月日。

明俊(一〇一〇一二九)

康和 三年 法橋。三月廿九日叙。鳥羽新御堂供養造

仏賞。柱繪賞。仏師(裏書)

(法橋(裏書)

長治 二年

天仁 元年

元永 元年

二年

「法橋。(明舜。以下同)」「水」
「死。九月六日。絵仏」(水)
「或本今年死去了」(水)

明舜↓明俊

明順(一〇六五)

元暦 二年

「從儀師。興。中御門。四十五。卅一。十五出。未役」(殘)

明昇(九七〇)

天元 元年 堅者。次。

明勝(一〇〇一〇一〇)

康和 二年 權律師。十二月廿九日任。御修法勞。

三年 逝去。正月十日。於修学院。拜除以後經

十ヶ日。(六十七)

明晴(一〇一四)

長和 三年

「講師。三月廿二日宣旨。三論宗。東大寺。年五十七。大和国人。当麻氏。禪徴資」(水)

明仙(九望九三)

天慶 六年 講師。五月六日宣。天台宗。延曆寺。左

京人。文屋氏。(五十八)

天曆 二年 權律師。十月十九日。已講勞。

六年 入滅。十二月八日。(八十二)

明泉↓明泉

明詮(音石僧都)(八六六)

嘉祥 二年 講師。法相宗。元興寺。桜井王孫。大原

氏。(六十一。一云六十五)

仁寿 元年 權律師。七月十七日任。已講勞。(六十

三。超上已講五人)

三年 少僧都。十月壬午日任。(六十五)

貞觀 六年 大僧都。二月十六日任。(七十六)

十年 入滅。五月十六日。転法輪功過他人。(生

年八十)。(裏書)或本云。隱居大和国音

石山寺。仍号音石僧都。

明暹(〇九十二三)

永長 二年 堅者。(卅九。大学頭明衡息)(裏書)

保安 元年 南京講師。五月日蒙宣旨。得業。六十二

歳。「三会。五月廿三日宣下。法相宗。

興福寺(水)

四年 「九月廿三日死。六十五。已講」(水)

明尊(志賀僧正)(〇一七一〇三)

寛仁 元年 權律師。十二月廿五日任。天台宗。千手

院。(智弁僧正入室。四十七)。「十二

月十五日任。園城寺。小野奉時子。奉

時者道風子也。智証大師門徒。阿闍梨

慶祚入室(水)

治安 元年 權少僧都。十二月廿九日任。(五十一)。

「十三日任」(水)

長元 元年 權大僧都。十二月卅日任。(五十八)

四年 大僧都。十二月廿六日任正。(六十一)

六年 權僧正。十二月廿二日任。(六十三)

八年 「十二月法成寺御八講博士。權僧正明

尊被始最初堅義」(水)

長曆 二年 大僧正。六月十八日任。(六十八)

四年 正月廿七日賜七十五戸封。法成寺行幸

次朝恩。(七十)

長久 四年 十二月廿八日兼法務。(七十三)

永承 二年 五月廿日蒙輦車宣旨。内裏御修法之

次。(七十七)

三年

三月二日興福寺供養。導師(裏書)

明達(允聖九童)

天慶 八年

八月廿一日楠天台座主。勅使少納言永職。同廿四日辞退了。(七十九)

權律師。十二月廿九日任。天台宗。延曆寺。康濟律師入室。撰津国住吉郡人。

五年

〔賜封七十五戸。東北院行幸賞。八十〕

天曆 三年

土師氏。(七十五)

天喜 元年

閏七月廿七日被聽牛車宣旨。(八十三)。

九年

律師。十二月廿六日転正。(七十九)

〔七月廿九日不堪行步故被下牛車宣旨。

入滅。九月廿二日。(八十五)

依病辞退不納之云々。為問訊関白入御

明肇(1001-1014)

長保 四年

權律師。七月廿六日任。内供勞。天台宗。

三井房〕抄)。(裏書)四月廿八日依病所帶職等皆悉辞退。不被納長者。

二年

〔七月廿一日被下宇治平等院阿闍梨並補別当檢校。明尊檢校。八月十一日長

延曆寺。〔中納言藤文範子。運昭内供入室。五十七〕。〔年六十九。臘四十九。

谷寺供養。導師〕抄)

智証大師門徒。住所北山普門寺。天元

五年

大僧正・僧正兩人三月十四日賜封五十

五年六月五日依余慶大僧都奏為延曆寺

五戸。東北院新堂供養賞(裏書)。「法成

阿闍梨。年月日補内供奉十禪師。(裏書)

寺八角堂供養賞賜封戸五十戸〕抄)

運昭者鴻譽内供奉弟子。鴻譽内供者智

辞表。月日上。(九十)

証大師玄弟子〕(水)

康平 三年

〔七月廿一日東北院供養。真言供養。

寛弘 三年

權少僧都。十二月十六日任。〔任日五〕(水)

四年

導師。十月廿五日宇治平等院塔供養〕

八年

辞表。三月。(六十七)。「四月廿七日依

(抄)

辞退停任〕(水)

六年

〔入滅。六月廿六日。九十三〕。「道風孫。

長和 三年

〔入滅。七月二日。六十九〕

奉時子。号志賀僧正〕抄)

明寵(九三)

承平 元年 堅者。

明珍(九三六九)

承平 六年

講師。去年十二月廿六日宣。三論宗。東

大寺。和泉国人。珍氏。(五十六)

天慶 三年

權律師。十二月十四日任。已講勞。(七十)

八年

律師。十二月廿九日轉正。(七十五)

天曆 三年

權少僧都。十二月廿六日任。(七十九)

八年

入滅。正月廿一日。(八十四)

明哲(八九八六)

貞觀 元年

講師。華嚴宗。葉師寺。

(裏書)始自今年。以維摩會講師明哲。

每年十月興福寺維摩會。囑請諸宗學業優長。果五階者為講師。明年正月大極

殿御齋會。以此僧為講師。三月葉師寺

最勝會講師。同前請之。經此三會者。

依次兼任僧綱者。他皆放此之。

六年

律師。二月十六日任。已講勞。

十年

入滅。十二月一日。

明忍(二二六二四〇)

大治 元年 堅者。(六十八)(裏書)

保延 六年

(南京講師。辭退。興福寺)。(教縁二替ル)

(裏書)当年維摩會講師。初日明忍勤仕。

十月六日蒙宣旨。即辭退。尚依重宣旨。

初日勤仕。有所勞。自第二日不參之。

明忍有所勞。不參由申上。未被仰問。

僧俗別當並行事綱所等請定之云々。

明範(一〇五三〇九)

永承 七年

堅者。興。(卅五)

承曆 三年

講師。七月三日宣。法相宗。興福寺。(六十二)

明福(三三八六)

弘仁十四年

維摩講師。法相宗。興福寺。(維摩講師研

學堅義次第』天長元年トス)

天長 四年

律師。五月廿八日任。(生年五十一。薦

四十一)

承和 二年

少僧都。三月十一日任。

十年

大僧都。十一月九日任。(六十六)

嘉祥 元年

入滅。八月廿三日。

明通(二二二二五)

寿永 二年 「律師。東大。侍從。卅一年。嘉應二

年三会」(殘)

元暦 二年 「(律師)。四十六。卅三」(殘)

明豐(七三)

養老 七年 「維摩会講師」(七)

明有(二三)

天承 二年 「七月八日僧事。阿闍梨。慈德寺行玄解

文(裏書)」(水)

ヤ

藥仁(八三)

貞觀十五年 講師。法相宗。藥師寺。

ユ

由性(八六九二五)

寬平 八年 權律師。閏正月六日任。天台宗。延暦寺。

遍照僧正在俗之時子也。雲林院別当。件院行幸有賞。良峯氏。

延喜 二年 律師。三月廿三日転正。

六年 少僧都。十月七日任。

十五年 入滅。二月日。〔七十四〕

愉秀(八九)

昌泰 二年 堅者。

有觀(二四一二四)

長承 三年 天台講師。六月廿日宣旨。園城寺。〔六

月廿二日宣旨。二会。年五十五〕(水)

保延 四年 權律師。二月十二日任。熊野御幸御導師

賞。〔歲五十九〕

永治 二年 (權律師)。〔六十三〕

有慶(〇一二〇九)

長和 元年 堅者。東。三論宗。

長元 八年 講師。三月十日宣。東大寺。〔四十九〕。

〔年五十〕(水)

永承 三年 權律師。十二月廿六日任。已講勞。有国

男。〔六十三〕

天喜 三年 權少僧都。六月十六日転任。〔七十〕

康平 元年 閏十二月廿九日補元興寺別当。〔七十

三〕

治暦 元年 權大僧都。十二月卅日転任。〔八十〕

三年 月日補東大寺別当。〔八十〕

延久 三年

辞表。讓与弟子。

入滅。二月廿二日。

有樹(一四〇)

保延 六年

堅義。第五日夕座。(東大寺)(裏書)

大治 元年

入滅。八月十六日。(四十三)。「七月日

有信(二四三)

康治 元年

五月五日太上法皇並禪定殿下於東大寺御受戒。小十師。著衣師(裏書)

有辨(二八二・二八五)

寿永 二年

「延曆寺住学生。竹林房。六十三。五十。学頭源実」(殘)

有信(二六四)

長寛 二年

「權律師」(抄)

元曆 二年

「(二念)。山。六十五。五十二。十四出」(殘)

有眞(二八二・二八五)

寿永 二年

「大僧都。仁。近江。菩提院。七十五。六十二」(殘)

幽仙(二九二・二九〇)

寛平 二年

權律師。十月二日任。天台宗。延曆寺。

元曆 二年

「前大僧都。七十七。六十四」(殘)

七年

律師。十月十四日転正。(六十)

有禪(二五二・二五三)

永久 三年

堅者。(卅二)(裏書)

三年

入滅。二月廿七日。

元永 三年

「三月二日長者宣。有禪得業為清水寺別当。本師權別当法印永縁讓之」(裏書)

祐縁(二八二・二八五)

寿永 二年

「威儀師。仁。土御門。五十。未役」(殘)

天治 元年

法橋。十月六日叙。權僧正永縁讓。與福

元暦 二年

「威儀師」。五十二〔残〕

元暦 二年

「住学生」。筑前阿一。六十一。五十一〔残〕

祐懷(二三)

保延 四年

十二月廿九日阿闍梨廿人宣旨ノ内。延曆寺座主權僧正行玄挙〔裏書〕

猷憲(六三、六四)

寛平 五年

天台座主。三月廿五日任。智証大師弟子。定心院座主。治二年。下野国人。勅使少納言藤是蔭。

祐經(二四)

保延 六年

維摩会后別当〔裏書〕

六年 入滅。八月廿三日。

祐賢(二五)

元暦 二年

「法橋。十月一日。仁。里」〔残〕

猷嚴(二六、二七)

寿永 二年

「二会。寺。唯。真音房。(治承二年二会)」〔残〕

祐勝(二六)

大治 四年

「十二月廿九日僧事。阿闍梨宣旨十三人。山七人ノ内。元慶寺解文〔裏書〕」〔水〕

元暦 二年

「二会。七十。五十六」〔残〕

祐範(二八、二九)

寿永 二年

「延曆寺住学生。四十。廿八。学頭源実」〔残〕

猷乘(二七、二八)

保延 三年

「最勝寺灌頂。小阿闍梨」〔水〕

元暦 二年

「二会。山。備後。四十二。卅冬」〔残〕

猷乘(二九)

長寛 二年

「権大僧都。正月三日入滅。三井寺」〔抄〕

猷運(三〇、三一)

寿永 三年

「園城寺住学生。筑前。四月還了。五十。学頭慶智」〔残〕

猷仁(三二)

長寛 二年 「法橋」(抄)

融覺(二八三・二八五)

寿永 二年 「園城寺住学生。長門一。六十八。五十四。学頭道頭」(殘)

三年 「長門阿。六十九。五十五」(殘)

元暦 二年 「住学生」。長門擬已講。七十。五十六(殘)

融碩(一〇〇五・一〇三)

寛弘 二年 研学。興。(卅二)

長和 四年 講師。三月廿二日宣旨。法相宗。興福寺。

「五十一」。「三月廿六日宣。伊勢人。守朝已講資。五十二」(水)

治安 三年 權律師。十二月廿九日任。已講勞。筑紫人。

長元 四年 「六十」。「東室西妻室住」(水) 權少僧都。十二月廿六日転任。(六十七)。

「六十八」(水) 六年 「入滅。二月十五日。七十」

三

餘慶(智辨・觀音院僧正)(九六九・一〇〇)

安和 二年 權律師。三月十日任。天台宗。延暦寺。

明詮律師弟子。筑前国人。(五十二)。

「年五十五。臘四十六。六月十九日補定心院十僧。康保三年十二月廿七日為

延暦寺阿闍梨行譽律師受法灌頂弟子也。依行譽為阿闍梨。承平五年七月二

日得度受戒。或曰日向国人云々」(水)

貞元 二年 律師。五月卅日転正。(五十九)。「六月

十六日転」(水)

天元 二年 權少僧都。十二月廿一日転任。(六十一)。

「廿二日任。六十五」(水)

三年 「月日任法性寺座主。而有慈覺大師門

徒之愁。不拜堂前停任。不入座主次第。仍不詳月日也」(水)

四年 權大僧都。九月五日転任。十一月廿八日

補法性寺座主。(六十三)。「智証大師

門徒始任此職。于時慈覺門徒騒動。山

上大衆引率參向関白里第。僧徒失礼有

濫吹事。仍供奉僧綱等被停公請云々。兩門相別初歟。不遂拜堂辞退云々」

世↓七

〔抄〕。「或本今年八月卅日任權大僧都」

〔水〕

永観 二年 大僧都。八月八日転正。〔六十五〕

永祚 元年

九月廿九日補天台座主。

権僧正。十二月七日転任。〔十二月廿七

日任権僧正。同日辞延暦寺座主。同辞

大僧都。七十一〕〔水〕

十月〔天台座主〕辞退。

正暦 二年 入滅。閏二月十八日。〔三月十八日薨。

七十七。或本七十三。号観音院僧正〕

〔水〕

寛弘 四年 謚号。二月十九日。智弁。

陽伊〔二二〇—二二三〕

大治 五年 法橋。十二月廿九日叙。最勝寺修造賞。

都維那也。

六年 〔最勝寺都維那〕

天承 二年 卒。六月日。〔六十〕。〔四月二日卒〕〔水〕

陽宴〔二六四〕

長寛 二年 〔法橋〕〔抄〕

陽覺〔二八三—二八五〕

寿永 二年 〔從儀師。興。河井。七十一。五十九。

未役〕〔殘〕

元暦 二年 〔從儀師〕。七十三。六十一〕〔殘〕

陽信〔二二四〕

永久 二年 堅者。〔卅六。前筑前守藤知家子〕〔裏書〕

陽仁〔二二五〕

保延 元年 五月廿四日阿闍梨五人宣下ノ内。最勝

寺〔裏書〕

陽生〔竹林院座主〕〔二八八—二九三〕

康保 五年 権律師。三月十一日任。天台宗。延暦寺。

内供勞。慈念僧正弟子。〔六十二〕。伊

豆国入〕

天延 二年 律師。五月十一日転正。〔六十八〕。〔五日

転。七十〕〔水〕

貞元 元年 〔八月十五日任法性寺座主〕〔水〕

二年 権少僧都。六月十六日転任。〔七十一〕。

〔七十三。或本五月卅日任〕〔水〕

天元 二年 少僧都。十二月廿一日転正。〔七十三〕。

〔十二月廿一日転〕〔水〕

永延 二年 権大僧都。五月七日転任。

大僧都。十二月廿七日転正。

永祚 元年

「少僧都。月日辞退。八十二。十二月

廿七日任延曆寺座主」(水)

二年

十一月廿一日拜天台座主。「辞座主。

十月廿日入滅」(水)

正暦 三年

九月廿八日天台座主辞退。「十月廿日

卒。生年八十八。或説文書明年八月一

日門徒署判。号竹林院座主。前少僧都」

(水)

四年

入滅。閏十一月廿一日。「(八十七)

陽禪(二〇四—二七)

長治 元年

始自八月一日御筆法花經御八講。聴

衆。延曆寺(裏書)

永久 三年

天台講師。阿闍梨。山。「二会。天台宗。

横川」(水)

五年

「七月四日死。已講」(水)

陽邦(二〇九—二二六)

寛弘 六年

研学。興。「勅使右大弁説孝。四十二」

万寿 五年

講師。六月七日宣旨。法相宗。興福寺。

巨勢氏。「(六十一)」「七月廿七日宣旨。

千到僧都資。已講卒」(水)

ラ

賴延(二三—二二六)

永久 元年

法橋。北野行幸権別当賞。「八月十七日

叙。天台宗。延曆寺。出雲守基仲男。

(裏書)真尊為正別当。可蒙今度行幸賞。

而依申正員辞散位。仍権別当賴延蒙此

賞云々」(水)

保安 元年

「五月廿二日為北野正別当。真尊死欠

替。(裏書)七月十九日為西塔院主。永

範已講卒去替之」(水)

二年

法眼。十月六日転叙。「御修法賞(裏書)」

(水)

大治 元年

入滅。四月廿五日。「四月廿四日曉頓死。

六十二」(水)

賴圓(二〇四—二〇三)

長久 三年

豎者。「卅二」

賴圓(二〇五—二〇四)

延久 二年

法橋。十一月廿八日叙。北野行幸賞。別

当勞。延曆寺。

應德 三年 法眼。十一月廿一日任。
長治 元年 逝去了。月日。

賴圓(1074)

承保 四年 堅者。五十。〔肥前守賴定子〕(裏書)

賴圓(1100)

康和 二年 講師。〔辞退〕。(慶憲ニ替ル)

賴圓(1121-1125)

寿永 二年 〔法橋。仏師。絵。賴源子〕(殘)

元暦 二年 〔法橋〕。賴源一男〔殘〕

賴縁(賴縁)(1071)

延久 四年 堅者。〔卅五。大和守藤定任子〕(裏書)

賴覺(1066-1073)

治暦 元年 權律師。十二月卅日任。天台宗。千手院。

〔四十四。永田大僧正入室〕

延久 四年 入滅。正月二日。

賴覺(1071-1086)

延久 四年 權律師。十二月五日任。陽明門院護持僧

勞。延暦寺。兼綱子。

承暦 四年 〔權〕少僧都。五月日任。

應德 三年 權大僧都。十一月廿一日任。
寛治 二年 卒。正月廿七日。〔五十七〕

賴觀(1071-1101)

延久 三年 法眼。十二月卅日叙。真言宗。右大臣賴

宗胤子。

永保 三年 權少僧都。十月一日任。法勝寺御塔供養

賞。仁和寺宮御讓。

應德 三年 十一月廿一日東寺長者。

永長 元年 權大僧都。十二月晦日為。

康和 四年 卒去。四月日。於德大寺。

賴基(1104-1134)

長治 元年 權律師。八月十三日任。前齋院御惱驗者

賞。但年来參仕内御修法。

保安 元年 權少僧都。十二月卅日転任。〔或本今年

任。僧都十二月晦日〕(水)

二年 〔權少僧都十月四日任〕(水)

三年 辞退。

四年 辞退。

五年 辞。

大治 六年 權少僧都。被返辞表歟。〔前少僧都〕。〔八

十一

天承 二年 權大僧都。五月廿七日任。(八十二)。(致

仕。前少僧都)。「五月廿八日任」(水)

長承 二年 辭職。十月日。(八十三)。「九月日辭」

(水)

三年 卒。十月廿一日。(八十四)

賴慶(〇九七)

永長 二年 堅者。(卅九)(裏書)

賴賢(〇三十一〇五)

長元 八年 權律師。十二月廿六日任。天合宗。延曆

寺。尋空僧都讓云々。參議源賴定子。

(卅四。尋円僧正入室)。「恵心院阿闍

梨。前少僧都覺超受法弟子。又隨阿闍

梨皇慶受法」(水)

永承 三年 權少僧都。八月廿二日転任。御持僧勞。

(四十七)

十二月廿二日補法成寺座主。

五年 權大僧都。十二月卅日転。(四十九)

七年 入滅。四月廿三日。(五十一)

賴源(〇六九)

治曆 五年 法橋。月日叙。八幡。(元)大法師(裏書)

賴源(一二三)

寿永 二年

「法眼。仏師。繪。二月廿四日鍾物卒。
筑前。頼助子」(殘)

賴嚴(〇九一〇六)

承曆 三年 堅者。(卅。右少弁藤実仲子)(裏書)

寛治 四年 講師。法相宗。興福寺。(四十一)

賴實(〇九一二四)

承曆 三年 堅者。(卅。淡路守中原頼成子)(裏書)

承德 二年 講師。興。(四十九)

天永 二年 權律師。五月任。南已講勞。「八月廿七

日任。三会勞」(水)

保安 四年 辭退。

天治 元年 辭退。

二年 (コノ年以後モ權律師)

大治 五年 權少僧都。正月十四日転任。「任日一」

(水)

天承 二年

「二月廿八日法成寺御塔供養。唄(裏書)(水)

保延 二年 辭退。(八十六)。「月日辭退。讓弘覺申叙

法眼。八十七〔水〕

永治 二年
〔前権少僧都。〕〔九十四〕

頼壽(1031-1081)

長元 六年
権律師。十二月廿二日任。天台宗。延暦

寺。播磨守信理子。〔四十六。慶円大僧正入室〕。〔惣持寺阿闍梨〕〔水〕

長暦 元年
権少僧都。五月廿五日転任。御持僧勞。

〔五十〕

二年
権大僧都。六月十八日転任。依御持僧重

朝恩云々。〔五十一〕

三年
二月依山相論勘罪名。〔五十二〕

長久 二年
〔入滅。十二月一日。五十四〕

頼秀(1100)

保安 元年
堅者。〔五十〕〔裏書〕

頼助(1031-1129)

康和 五年
法橋。七月廿五日叙。興福寺供養。仏

修理賞。大仏(師)〔裏書〕

長治 二年
〔法橋〕〔裏書〕

天仁 元年
〔法橋。木〕〔水〕

元永 二年
〔卒。六月九日。六十六〕〔水〕

頼心(1124-1126)

永久 二年
天台講師。三井。年六十二。〔二会。十月十九日宣。天台宗。園城寺〕〔水〕

四年
〔三月三日。死。已講〕〔水〕

頼信(1036-1056)

長元 九年
堅者。〔甲斐守藤頼経子〕。興。〔廿七〕

寛徳 二年
講師。法相宗。興福寺。〔四十六〕

天喜 三年
権律師。十二月廿八日任。已講勞。〔四十六〕

十六

康平 三年
権少僧都。十二月廿七日転。〔五十二〕

五年
八月十四日補興福寺権別当。即寺務執行宣承云々。〔五十二〕

治暦 二年
十一月廿五日補興福寺正別当。長

被参春日之次。〔五十七〕

三年
権大僧都。二月廿五日転任。興福寺供養

日。〔五十八〕

延久 二年
法印権大僧都。八月廿二日叙。兼法務。

春日行幸賞。〔八月廿三日春日行幸別

当賞。無散位之例。故申兩事。六十。

明尊以後権法務中間十一年〕〔抄〕

承保 元年
権僧正。十二月廿七日任。〔六十五〕

二年 山階別当。十二月七日春日行幸賞。任頼尊已講律師。

三年 卒。六月廿七日。(六十)

頼仁(一六四)

長寛 二年

「法橋」(同名二人)(抄)

頼仁(一八三-一八五)

寿永 二年

「法橋。山。帥」(殘)

元暦 二年

「(法橋)。密」(殘)

頼尋(一〇六-一〇六)

治暦 元年

権律師。十月十八日任。天台宗。千手院。

法成寺行幸賞。依寺蒙上座被賞。(五

十一。源泉権僧正入室)。「寺家上座

並觀音堂造功。三綱正員初例也」(抄)

延久 元年

「法城寺上座」

承保 三年

権少僧都。十二月十九日任。(六十一)

永保 元年

辞退。

寛治 六年

卒。月日。

頼清(一〇七-一一〇)

承保 二年

法橋。三月日叙。行幸賞。八幡宮。権別

当。(元)大法師(裏書)

寛治 二年 法眼。三月日叙。八幡別当(裏書)

嘉保 二年 法印。三月廿九日叙。行幸賞(裏書)

頼増(一〇七-一〇七)

延久 四年

「二会講師。件二会於円宗寺從今年被始

行。当座任律師。行幸賞」

権律師。十一月廿九日任。円宗寺被始行

二会講師賞。結願日行幸次。天台宗。

園城寺。「十月廿九日任。円宗寺法華

会初講師賞。有行幸。於高座任。六十

二。有御拜。三井。丹後国人。十月廿

五日円宗寺始置法華・最勝二会。以天

台両門隔年為講師。依已講勞可任僧綱

宣下已了。即最初講師云々。第五日有

行幸。権律師又同被置立義。立義者円

禅」(抄)

承暦 二年 (卒。五月九日)

頼尊(一〇八-一一〇)

永承 元年

堅者。右京大夫藤実康子。母権中納言藤

經通女。(廿一)

治曆 三年 講師。去年十一月廿二日宣旨。法相宗。

興福寺。(四十二)

承保 二年 律師。十二月七日任。春日行幸賞師讓。

(權ナシ)

承曆 二年 七月廿六日任興福寺權別當。

永保 元年 (權)少僧都。十二月四日任。山階權別當。

春日行幸賞。

三年 權大僧都。十二月卅日任。三會已講勞。

應德 三年 三月四日山階權別當停任。

寛治 三年 三月六日任山階別當。

法印權大僧都。同十日任。春日行幸賞。

依寺家別當也。

嘉保 二年 雖為興福寺別當不□□寺務。二月十四

日始蒙執行宣旨。

永長 二年 春日行幸之日。以賴信時例散位賞者弟

子兩人可被叙由。雖訴申。遂無許容。

只大僧都覺任叙法印不被許。以上座叙

法橋条。頗有攀緣云々。

康和 二年 入滅。於御寺。七月廿五日。(七十五)

院。加賀國人。(六十一。慶祚阿闍梨

入室)

康平 六年 權少僧都。十二月廿九日任。(六十七)

七年 (入滅。八月十日。六十八)

賴尊(二〇九—二〇九)

永保 二年 (權)律師。十二月卅日任。仁和寺。御修

法勞。

寛治 二年 致辭。

五年 卒。前律師。

賴謹(二〇九—二〇九)

治曆 五年 研学堅義。(四十二)(裏書)

應德 元年 講師。五月廿九日宣。法相宗。(五十七)

賴智(二二四—二二四)

長承 三年 法橋。七月四日叙。女院御発心地平愈

賞。園城寺。

永治 二年 (法橋)。(四十八)

賴超(二二八)

大治 三年 堅者。(六十)(裏書)

賴尊(二〇五—二〇五)

天喜 五年 權律師。十二月廿八日任。天台宗。千手

賴範(二〇九—二〇九)

延久 元年 權律師。五月廿五日任。護持僧勞。天台

宗。千手院。

三年 權少僧都。十二月卅日任。護持僧勞。

承保 元年 權大僧都。十二月廿七日任。

三年 辭退。十二月日。(七十三)

永保 元年 卒。八月廿六日。前大僧都。

賴辨(二二)

元永 二年 「五月廿六日長者宣。東北院勾当。本

師清輝之讓(裏書)」(水)

賴命(一〇五—一〇三)

長和 四年 「法橋。十二月廿日叙。天台宗。延曆

寺。中宮御持勞。慈覺大師門徒勝祚阿

闍梨弟子。勝祚者長燭弟子」(水)

長元 四年 「卒。月日」(水)

賴命(一〇五—一〇六)

天喜 三年 法橋。六月十六日叙。真言宗。東寺造功

賞。(七十)

康平 元年 入滅。閏十二月二日。(七十三)。「僧綱

以後不去東寺。凡僧別当初例也」(抄)

賴與(二八—二八五)

壽永 二年 「法橋。仏師。賴源二男」(殘)

元曆 二年 「(法橋)。絵」(殘)

賴譽(一〇九—一〇九)

治曆 三年 權律師。十月五日任。天台宗。千手院。

平等院行幸之次。大僧正御讓。(四十五)

延久 元年 入滅。十一月廿四日。

賴譽(二三)

長承 二年 豎者。(六十。寺分被下准業。長者宣。

始自今年三人例」(裏書)

リ

理覺(二三)

保延 四年 五月廿九日阿闍梨。八人宣旨ノ内。前

大僧正覺□。「(裏書)五月卅日被行僧

事。阿闍梨宣旨。蓮台院。前大僧正覺

猷拳(裏書)」(水)

理智房座主↓仁源

理範(二八—二八五)

壽永 二年 「東寺灌頂。仁。信乃。治承元年東(寺

灌頂)」(殘)

元曆 二年

〔東寺灌頂〕。五十八。四十五〔殘〕

流罪法眼↓澄仁

隆英〔二八三二八〕

寿永 二年

〔三会。興。治承二年。六十阿。五十一

〔殘〕

三年

〔三会〕。論教房。六十五。五十二〔殘〕

隆延〔二八三二八〕

寿永 二年

〔園城寺住学生。尾張阿。六十二。五十

二。学頭慶智〔殘〕

三年

〔住学生〕。六十三。五十三〔殘〕

隆圓〔普賢院僧都・小松僧都〕〔九四一〇一五〕

正曆 五年

權少僧都。十一月五日任。天台宗。延曆

寺。実因大僧都弟子。内大臣藤道〔男。

〔十五。号小松僧都。不経律師歟。一身

阿闍梨〕。〔関白内大臣男。伊周同母。

貞元二年十月廿二日得度受戒。貞觀二

年得度。年紀頗有疑。若是生年歟〔水

寛弘 八年

権大僧都。四月廿七日転任。〔卅二〕。〔任

日一〔水

長和 四年

〔入滅。三月四日。卅六〕。〔二月四日卒。

隆縁〔二三〕

天永 三年

堅者。〔四十。大宮大進藤仲実子。寺分

准業〕〔裏書〕

×隆家〔行昭ノ註記〕

隆海〔六四一八六〕

貞觀十六年

講師。三論宗。元興寺。摂津国人。清海

氏。

元慶 七年

権律師。十月七日任。已講勞。〔六十九〕

仁和 二年

入滅。七月廿六日。往生記入。

隆覺〔〇九三二〇〕

寛治 七年

権律師。九月十一日任。権僧正隆明譲

也。依之被申可補山座主由。而恐山大

衆訴。為慰其憤以弟子被補律師云々。

〔大膳大夫藤家範子〕

康和 三年

逝去。三月廿六日於御室戸房。病悩之間。

進於辞表云々。〔卅五〕

隆覺〔〇九六一二五〕

嘉保 三年

堅者。〔廿二。右大臣顕房子。聖尋辞退

替〔裏書〕

長治 元年

始自八月一日御筆法花經御八講。聽

衆。興福寺〔裏書〕

嘉承 元年

南京講師。〔卅二〕

保安 元年

權律師。十二月卅日任。六条右大臣息。

南已講勞。〔法相宗。興福寺。三会勞〕

〔水〕

大治 元年

〔五月晦日補法華寺〕〔水〕

三年

〔八月八日依隆信讓。補藥師寺。〔裏書〕

十月廿二日於石清水宝前被供養一切

經。散花〕〔水〕

六年

〔藥師寺別當。五十七〕

天承 二年

權少僧都。五月廿七日転。藥師・法花兩

寺別當。〔五十八〕。〔任日一。〔裏書〕二

月廿八日法成寺御塔供養。三月十三日

得長寿院供養。十月七日宝莊嚴院供養。

散花〕〔水〕

二年

七月十七日補興福寺權別當。〔五十九〕

長承 三年

二月十七日法勝寺金泥一切經供養。散

花〔裏書〕

四年

權大僧都。二月廿七日転。春日御幸賞權

官勞。〔六十一〕

保延 三年

法印權大僧都。五月廿一日叙。最勝講僧

事次。〔歲六十三〕

四年

十月廿九日転興福寺正別當。〔歲六十

四〕

五年

〔十一月九日依本寺大衆合戰事停任了。

生年六十五〕

永治 二年

〔法印權大僧都。法花寺別當。〔六十八〕

仁平 二年

〔三月七日仙院五十御賀。講師權僧正〕

〔抄〕

保元 元年

〔五月廿五日蒙牛車宣旨。最勝講参仕

故也。顯宗牛車初也〕〔抄〕

×隆覺↓隆寛

隆敷〔二二〕〔二四〕

天承 元年

最勝寺灌頂。〔小阿闍梨〕〔水〕

長承 元年

〔尊勝寺灌頂。小阿闍梨〕〔水〕

二年

〔尊勝寺灌頂。小阿闍梨〕〔水〕

保延 二年

權律師。正月卅日任。中宮御修法勞。

〔山〕。〔年七十五。延曆寺〕〔水〕

三年

五月廿一日無動寺別當。補任。〔七十

六〕〔水〕

永治 元年 権少僧都。十一月廿四日転。尊勝寺灌頂

勞。

二年 (権少僧都)

隆兼(二八三二八五)

永治 二年 「法橋。山。大輔。六十六。五十一」

(殘)

隆寛(隆覺)(二二三)

天永 三年 堅者。(廿八。大藏卿為房息)(裏書)

元暦 二年 「(法橋)。里。六十八。五十三」(殘)

隆寛(二八三二八五)

寿永 二年 「法橋。仁。伊与。十六。二年」(殘)

元暦 二年 「(法橋)。里。十八。四」(殘)

隆光(八〇一六〇)

元慶 四年 講師。法相宗。兼俱舍。薬師寺。河内国

人。

隆教(二三二二三)

長承 元年 尊勝寺・最勝寺灌頂。

二年 尊勝寺灌頂。

仁和 二年 権律師。十二月廿八日任。兼因明師。已

講勞。(河内国人。真恵・忠恵両律師

弟子)

隆恵(八七)

承和 四年 講師。法相宗。興福寺。

隆豪(二八三二八四)

寿永 二年 「定額。仁。青多房」(殘)

(マ、)

隆恵(二三)

保延 四年 十二月廿九日阿闍梨廿人宣旨ノ内。延

暦寺座主権僧正行玄挙(裏書)

隆算(一〇一三)

長和 二年 堅者。東。三論宗。

隆曉(二八三二八五)

寿永 二年 「法眼。仁。弥勒寺。宰相。五十二。

四十一」(殘)

隆實(二四三)

永治 二年 法橋。最勝寺宝蔵造賞。延暦寺。西大寺

別当。

隆順(二三)

天承 元年 堅者。〔五十八〕(裏書)

隆助(二四、二四)

保延 六年 法橋。十二月晦日叙。寛曉法印讓。大教院修造賞。〔東大寺。故近江守隆宗子〕

永治 二年 (法橋)

隆菊(二三、二四)

長承 二年 權律師。五月廿八日任。前齋院於得長寿院御腦平喻賞。別当僧正覚猷讓。民部卿□□息。〔四十五〕

保延 二年 權律師。〔三井。四十八〕。〔五十〕(水)

七年 辞退。

永治 二年 入滅。二月日。〔五十四〕

隆昭(〇三)

長曆 二年 堅者。興。〔廿三。左大弁経頼子。勅使

右少弁義忠。〕〔三会定一記〕等隆照

隆昭(〇五)

天喜 五年 堅者。〔四十四〕

隆勝(二六)

長寛 二年 「法橋」(抄)

隆信(二〇、二三)

長治 二年 法橋。五月廿九日叙。藥師寺別当。

天仁 元年 南京講師。興。〔五十一〕。〔五月廿九日宣旨。法相宗。三会〕(水)

天永 二年 「長尊不遂後二会逝去了。仍以隆信法橋勤之。道僧綱下薦之故也(裏書)」(水)

永久 四年 四月廿五日大僧正覚信拜賀。車御前(裏書)

法眼。五月廿三日転。三会后二会闕。兩度勤仕勞。〔十月十日勤堅義開白(裏書)〕(水)

書」(水)

保安 五年 權少僧都。正月十四日任。南已講勞。〔三

会勞〕(水)

天承 二年 入滅。五月八日。〔七十六〕

隆眞(二五、二六)

永久 三年 東寺灌頂阿闍梨。仁和寺。〔小阿闍梨〕

(水)

四年 東寺灌頂。〔小阿闍梨。〕(裏書)五月廿三

日被行僧次。索光寺別当〔水〕

×隆仁↓榮仁

隆禪(〇〇三-110〇)

康平 六年 堅者。〔廿六。陸奥少将正兼子〕

延久 五年 講師。去年十月廿九日宣旨。法相宗。興

福寺。〔卅六〕

永保 二年 (權) 律師。十二月卅日任。三会旁。

寛治 六年 權少僧都。五月十六日転任。〔洛尋辞大

僧都讓与之〕

嘉保 三年 三月十三日補興福寺權別当。

永長 二年 權大僧都。三月廿八日任。春日行幸賞。

為權別当。仍有此賞。

康和 二年

法印。正月十四日叙。大安寺修理賞。
入滅。七月十四日。於京房。〔六十三〕

隆尊(七五-176〇)

天平 三年

律師。四月廿二日任。化人也。〔生年四
十六〕。東大寺供養講師。

四年

三月十四日東大寺大仏始奉塗金。未畢
之間。四月九日儲大会供養。講師隆尊
律師。始自正月三日迄十二月晦日禁断

天下殺生。但縁海百姓以漁為業。不得
生存者。随其人数給糲二升。

〔或本今年退〕〔七〕

天平 七年
宝字 四年

入滅。閏四月十八日。〔生年五十五〕。〔元
興寺〕〔七〕

隆尊(〇〇六-1120)

永長 元年 法橋。十二月廿九日叙。法成寺上座。但

臨時朝恩。

天永 元年 (法橋)。〔八月日死。八十三〕〔水〕

隆智(一二〇)

大治 五年

〔五月十三日僧事。阿闍梨宣旨。千手
院良智替。增智法印解文(裏書)〕〔水〕

隆朝(一二〇)

保延 六年

維摩会。聴衆。藥師寺七人ノ内(裏書)

隆寶(九三-1026)

承平 五年

權律師。十月十二日任。法相宗。東大寺。
戒壇和尚。内供。〔七十八〕

六年

入滅。閏十一月十四日。〔七十九〕

隆遍(一二五)

元暦 二年

〔律師。八月十日。仁。弁〕〔殘〕

隆明(〇六五—一〇三)

治曆 元年 權律師。十二月卅日任。天台宗。千手院。

隆家師息。(四十五。明尊大僧正入室)

延久 元年 (三井)

辭退。月日。

承保 元年 權少僧都。十二月廿七日任。御持僧賞。

(五十五)。前律師。

二年 法印。四月十四日叙。御持僧。

応徳 三年 法印(權)大僧都。十一月廿一日任。

寛治 五年 權僧正。五月六日転任。

六年 五月十六日為崇福寺別当。

嘉保 二年 八月廿九日給封戸五十烟。太上天皇御

(マ、)虎病平復賞。十一月廿七日蒙輦車宣

旨。依座主御悩平復之賞也。即太上天

皇給御車云々。

永長 元年 僧正。十二月晦日転正。

康和 二年 六月八日為寺大衆被焼却房舎。解却於

長吏。八月十九日宣旨。左大臣宣奉。

如旧執行寺務。重勿令致濫行者。

四年 大僧正。五月十三日転任。

長治 元年 薨。九月十五日。於御室戸□。于時年八

十四。

隆耀(二二四)

長寛 二年 「法橋」(抄)

隆耀(經一)(二二二—二二五)

寿永 二年 「法橋。興。丹後。六十三。五十」(殘)

元暦 二年 「(法橋)。里。六十五。五十二」(殘)

龍花院↓顯覺

龍蓋寺僧正↓義淵

良意(〇六—一二〇)

永保 元年 權律師。十二月廿七日任。御修法勞。園

城寺。(越前守良經子。四十八)

寛治 二年 權少僧都。十二月廿九日任。護持僧賞。

(五十五)

六年 (權)大僧都。五月十六日転任。

嘉保 二年 八月廿五日為三井寺別当。

承徳 元年 法印權大僧都。十二月晦日叙。

康和 二年 正月十四日任梵釈寺別当。

四年 權僧正。五月十三日任。

七月三日為法成寺別当。(御持僧勞)

五年 七月廿五日興福寺供養。呪願僧正(裏

書

薨。十一月十五日。於三条西洞院病悩五日。

良胤(100A)

寬弘 四年 研学。興。(四十五)

良胤(105)

元曆 二年 「法橋。五月廿七日叙。五十。卅四」

(殘)

良延(113-115)

長承 二年 法橋。十二月十七日叙。寬澄律師讓。民

部卿宗通息。「延曆寺」。「年四十七」

(水)

保延 元年 卒。五月十一日。

良宴(113-115)

壽永 二年 「法橋。山。大納言。五十四。四十一」

(殘)

元曆 二年 「法眼。密。正月十三日。五十六。四

十三」(殘)

良圓(106-108)

長元 元年 權律師。十二月卅日任。天台宗。延曆寺。

内供。右大臣実資息。(四十六。慶円

大僧正入室)。「皇慶阿闍梨受法弟子。

治安元年五月日依彼寺座主權大僧都慶

命奏。為法性寺阿闍梨」(水)

四年 律師。十二月廿六日転正。(四十九)。「十

二月廿六日為法興院座主」(水)

六年 權少僧都。十二月廿二日転任。(五十)。

「五十一。護持勞」(水)

長曆 三年 二月依山相論。勘罪名。(五十七)

永承 五年 入滅。七月十八日。(六十八)

良覺(106-109)

永保 三年 權律師。十二月卅日任。法性寺中宮行啓

賞。座主讓。

寬治 二年 致辭。

承德 二年 卒。七月日。於日野。前權律師。

良覺(113-115)

壽永 二年 「法橋。寺。帥。五十三。卅二」(殘)

元曆 二年 「法橋」。里。幡。五十五。卅五」(殘)

良基(114)

長寬 二年 「法橋」(抄)

良義(1095)

寛治 八年 講師。辞退。辞退之替經尋供足。〔長者

内大臣師通宣〕

良慶(1131-1155)

寿永 二年 〔從儀師。仁。五十八。卅九。未役〕

(殘)

良惠(765)

天平 元年

大僧都。任東大寺別當。治五年。良弁僧都弟子。不經少僧都・律師敷。補任中不見。可尋。〔或本明年任別當云々〕

良賢(1141-1155)

元暦 元年

〔東寺灌頂。元暦元年十二月廿日宣。今年東始。仁。山城。〕(殘)

良惠(1141-1143)

保延 六年 法橋。九月十七日叙。法印源惠讓。〔故

大藏卿為房子。歲四十。山〕

良源(横川大僧正・定心房)(955-985)

康保 二年 權律師。十二月廿八日任。天台宗。延暦

良慶(1095-1123)

寛治 四年 堅者。卅六。越中守源良宗子(裏書)

永久 元年 南京講師。〔辞退〕。(清賢ニ替ル)

寺。近江国浅井郡人。木津氏。〔五十四〕。(裏書)以棄師寺恩訓僧都為師主。度縁受戒。後住山修学。兼学天台真言畢。喜慶僧都資也。

良慶(1131-1155)

寿永 二年 〔法橋。十一月十日。寺。教月房。六

十六。五十六〕(殘)

三年 律師。十二月廿八日転正。

安和 元年 權少僧都。三月十一日転任。〔五十七〕

天禄 二年 五月十一日兼法務。〔六十〕

元暦 二年 〔法橋〕。顯。六十八。五十五〕(殘)

三年 〔或今年為法務。六十〕(水)

天延 元年

「少僧都。十二月廿二日転正」(水)

二年

權大僧都。五月十一日転任。(六十三)

三年

「大僧都。十月五日任。六十一。任日

一」(水)

貞元 二年

權僧正。十月五日転任。山座主。「六十

五」(水)

天元 二年

僧正。十二月廿一日転正。

四年

大僧正。八月卅日転任。同日兼法務并輦

車宣旨。「八月十六日」(水)。(七十)。

「依天皇御藥有此賞。大僧正者行基鑒真也。其後經二百余年任之」(抄)

永観 三年

入滅。正月三日。山座主。「七十四」。「父

母無一子。祈請三宝。夢坐海中向天上。日光遙来下入懷中。厥後有身。年始九歲。遊我田中。頂有天蓋形似蓮華。見者奇異。寛和元年正月三日卯時。和尚

合掌面西誓曰。我所修善悉資菩提。益分童修廻一切衆生。命終後願必往生極

樂。口念弥陀遂入滅。是日禪房前樹上。有紫雲而昇天。時春秋七十四。同正月

三日後夜參議大江齊光夢想云。七十三

良嚴(二六三—二八五)

寿永 二年

「經師。(法橋)。円嚴子」(殘)

元暦 二年

「(經師。法橋)。但馬」(殘)

良弘(二八三—二八五)

寿永 二年

「法印大僧都。兼。小野。中納言。四

十二」(殘)

元暦 二年

「三月日卒了。四十四。前大僧都」(殘)

良光(二〇五—二〇四)

永承 五年

權律師。十二月卅日任。天台宗。延暦寺。

太政大臣為元息。(六十九)

天喜 二年

「入滅。正月廿一日。七十三

良興(七六)

天平 五年

少僧都。任東大寺別当。治四年。良弁大

僧都弟子。但件良興。補任中不見。可

尋。「花嚴宗」(七)

良實(二九—二三)

大治 四年

權律師。十一月卅日任。女院広隆寺御幸賞。仁和寺。周防守藤孝清子。〔四十〕。〔真言宗〕〔水〕

良脩(一修)(二九一二四)

大治 四年

〔十月廿八日僧事。阿闍梨宣旨五人ノ内。勝豪阿闍梨解文。極樂寺〔裏書〕

五年

權少僧都。十二月十四日任。女院熊野御

長承 三年

法橋。二月十七日叙。法勝寺金泥一切經

六年

幸驗者賞。〔十二月廿九日補〕〔水〕

天承 二年

〔広隆寺別当。四十三〕
正月廿七日奉護持僧。〔二月廿八日法成寺御塔供養・三月十三日得長寿院供養。唄〔裏書〕〕〔水〕

保延 元年

陸奥国守円俊子。六月三日蒙勅勘。〔良修〕。〔十二月日還着諸寺供僧等。六

入滅。閏四月廿八日。〔四十四〕

十一〕〔水〕

良實↓行玄

永治 二年

法眼。月日叙。前大僧正讓。〔法眼〕

良秀(〇〇一〇五)

康平 三年

權律師。十二月廿八日任。天台宗。千手院。慶暹辞退替被任。女院御経師勞。〔五十八〕

良俊(二二四)

長寛 二年

〔法橋〕〔抄〕

治暦 元年

權少僧都。十二月卅日任。〔六十三〕

五年

〔仁和〕

延久 三年

〔權〕大僧都。十二月卅日任。

承保 二年

卒。正月十五日。〔七十二〕

良渚(二四一九)

延喜十四年

講師。去年十月廿五日宣。花嚴宗。東大寺。大中臣氏。

良修↓良脩

十八年 權律師。二月廿四日任。已講勞。
入滅。四月十四日。

良昭(一〇五—一〇六)

天喜 四年 法橋。十二月廿八日叙。法成寺修造賞。

法成寺上座也。定額也。(六十五。大夫史義賢弟)

康平 二年 法眼。十月十二日叙。法成寺阿弥陀堂供

養。依寺家上座別被賞。(六十八)。「十一月廿二日叙。件人藥師堂造之」(抄)

〔入滅。正月四日。七十四〕

良深(一〇三—一〇七)

康平 六年 權律師。十二月廿九日任。真言宗。東大

寺。(彈正大弼延信子。卅九)

延久 元年 (石山)

權少僧都。十二月卅日任。

承保 元年

「今年勤仕後七日御修法。依無僧事為非長者勤此役。同年十二月廿七日補長者。寺務執行。石山座主」(抄)

四年 卒。八月廿一日。(四十三)

良眞(一〇五—一〇六)

天喜 三年 講師。八月一日宣旨。花嚴宗。東大寺。
(七十二)

治曆 二年 權律師。十二月廿九日任。已講勞。(八

十三)

延久 元年 入滅。八月日。

良眞(一〇五—一〇六)

康平 二年 權律師。八月廿五日任。天台宗。延曆寺。

御筆仁王經供養御八講開白称。講師御山座主明快僧正勤之。兼証誠者。仍其賞以弟子良眞讓与。奏任之。(卅六。明快大僧正入室)

六年 權少僧都。十二月廿九日任。新御願供養

賞。実相院。(四十)

三年 (權)大僧都。十二月卅日任。

承曆 三年 法印。正月十四日叙。

永保 元年 法印(權)大僧都。三月日還任。

權僧正。十月一日任。法勝寺御塔供養賞。

公範辞退替。

應德 三年 僧正。十月十六日任。円法寺供養賞也。

(A、)十一月廿一日任円宗寺別当。

寛治 五年 大僧正。五月六日任。同廿日被聽聲

七年

依大衆訴停座主任。但□辞状之後被補其替。

嘉保 二年

辞退座主久不任公請。今年始參最勝講証義。以法勝寺法成寺所司為御前云々。

三年

入滅。五月十三日。不還□本山。於西京住房逝去。

良泉(一二四)

長寛 二年

「法橋」(抄)

良撰(二五十一〇四)

天喜 三年

堅者。(五十二)

承保 元年

「講師。辞退」。(深賢二替ル)

良(善)(一〇六)

永保 二年

堅者。(六十一)(裏書)

良禪(二六三一二六四)

康平 六年

權律師。十二月廿九日任。天台宗。延曆寺。讃岐國人。(六十一。覺慶大僧正入室)

七年

「入滅。十二月廿日。六十四」

良尊(一〇三一二五)

長元 五年

堅者。興。(廿九)

天喜 二年

講師。八月二日宣旨。法相宗。興福寺。

治暦 二年

「遠江守藤相任子。五十一」

權律師。三月廿七日任。已講勞。去年分

追被任。(六十四)。(裏書)去年十二月

晦日。僧綱召被洩了。仍興福寺諸僧行

烈。公家愁申者。□二月廿三日被任也。

「去年十二月晦日僧事不任。仍興福寺

大衆引列訴申。仍追被任」(抄

「六角寺」

延久 元年

卒。五月二日。

承保 二年

良湛(二八五)

元暦 二年

「興福寺住學生。三月十日宣。堯乘房。

卅九。廿三。学頭範玄。信宗。十一月

日」(殘)

良智(一〇〇一二三)

康和 二年

堅者。(四十八)(裏書)

保安 三年

南京講師。(辞退)。次賜良智得業。興福

寺。兼觀辞退代。七十。六月十四日

宣。又以辞退替法眼玄覺(裏書)「(水

良智(二八三)

寿永 二年 「少僧都。寺。讃岐。三月五日。四十

七(殘)

良鎮(二三七)

保延 三年 堅者。(六十四)(裏書)

良敏(七四一七三)

神龜 元年 「律師。任日不見。法相宗。興福寺。或

本無之(七七)

天平 元年 「少僧都。十月七日任(七)

九年 大僧正。八月廿六日任。義淵僧正弟子。

不經律師少僧都歟。「良弁同法也(七)

十年 入滅。月日。「或本。今年去職。明年入

滅云々(七)

良辨(七四一七三)

天平十七年 「律師。或本天平勝宝直任少僧都云

々。正月廿一日任。義淵僧正弟子。有

山寺根本(七)

天平 三年 少僧都。四月廿二日任。相模國人。百濟

学生。花嚴宗。東大寺。

四年 東大寺別当補。治九年。始之。「五月

天平
字平

八年 一日任(七)

大僧都。五月廿四日任。

僧綱員位階並僧位階事。大僧都良弁・

少僧都慈訓・律師法進等奏(裏書)

五年 「辞退東大寺別当(七)

七年 「僧正。九月四日任。或本宝龜四年任

云々(七)

宝龜

八年 僧正。或本大僧都(七)

四年 「入滅。閏十一月十六日。元法相宗」

(抄)。「十一月十六日入滅。或本云。今年

任僧正云々。弟子四人。良興・良惠・忠

惠・宝忠。聖武天皇御師僧正(良)弁者先

生震旦修行者也。為求法向舍衛国欲渡

流沙。依無功錢数月遲留。天皇其先生

流沙船師也。不願功錢濟渡修行了。爾

時件修行僧為酬罔極之恩可生将来国王

之由致誠祈誓。以其念力生日本国王

也。然而今生業尽後世可受苦。因之良

弁奏云。建立大伽藍可為後世之資糧。

天皇依教喻建立東大寺。奉鑄大仏。依

無沙金屋(夜)長大息之間。夢中有人奏云。水辺勝地建立伽藍祈禱沙金出来歟者。夢驚令求勝地建觀世音菩薩像。不經幾月下野国初貢沙金。今近江国石山寺是也」(七)

良勇(谷座主)(九〇—九三)

延喜 廿年 八月十一日任天台座主。和尚。智証大師弟子。治二年。号谷座主。

廿三年 入滅。三月六日。美乃国人。姓美部。

諒乘(九六)

長德 二年 堅者。(四十八)

林延(二三六)

保延 二年 堅者。辞退。(覺隆ニ替ル)(裏書)

林懷(九七—〇三)

永延 元年 堅者。(卅七)

長德 四年 講師。去年十二月廿六日宣旨。法相宗。

興福寺。(四十七)。「年四十七。八。臘

卅四。伊勢国人」(水)

寛弘 三年 權律師。十二月十六日任。已講勞。大中

臣氏。(五十六)。「十二月廿六日任。

或本十六日。年五十五。臘四十二。齋宮大中臣興身男。神祇少嗣賴行孫。僧正法印大和尚位真喜入室弟子」(水) 講師。第四日(夕座)。(清春受病ノ替リ)

「東寺(裏書)」(水)

八年 權少僧都。四月廿七日転任。(六十一)

長和 四年 「十二月十日任。山階寺別当。六十五」

(水)

五年 五月十五日補興福寺別当。(六十六)。

「同上」(水)

寛仁 元年 權大僧都。三月十五日転任。(六十七)

治安 三年 大僧都。十二月廿九日転正。

万寿 二年 「入滅。四月四日。七十五」。「治九年」(水)

林覺(二三—二五)

天治 二年 東寺灌頂。阿闍梨。醍醐寺。「小阿闍

梨」(水)

三年 東寺灌頂。「小阿闍梨。(裏書)十月廿五

日法金剛院供養。持金剛衆」(水)

大治 五年 權律師。正月廿四日任。東寺灌頂勞。(六

十三)。「正月十四日任。真言宗。醍醐

寺」(水)

天承 二年

法林寺別當。

保延 元年

卒。六月廿一日。〔六十八〕。〔六月廿七日卒〕〔水〕

林慶(二〇六—二〇七)

治曆 四年

研学堅義。〔廿。參議藤資房子〕〔裏書〕

永保 三年

講師。〔五月廿九日宣旨。年卅五。興福寺〕

嘉保 二年

權律師。十二月廿八日任。三会勞。〔五十一〕

永長 二年

逝去。三月十日於奈良。〔五十二〕

林元(二〇三—二〇四)

長元 五年

堅者。興。〔勅使經輔〕

永承 二年

講師。八月十八日宣旨。法相宗。興福寺。〔四十三〕

林豪(二〇〇—二〇九)

承曆 四年

〔權〕律師。十月五日任。持明院供養賞。

法印良真讓。

寛治 三年

權少僧都。十二月卅日任。

承徳 二年

七月九日可放円宗寺阿闍梨解文由。蒙

□宣。依為供僧上藤敷。

三年

死去。七月一日。於二条京極。□□以前

進辞表云々。

林舜(二三〇)

保延 四年

十二月廿九日。阿闍梨廿人宣旨ノ内。

林禪(二〇九—二一六)

寛治 五年

堅者。卅九〔裏書〕

大治 元年

南京講師。辞退。〔弘覺ニ替ル〕

林範(二八三—二八五)

寿永 二年

〔從儀師。興。五十一。未役〕〔殘〕

元暦 二年

〔從儀師〕。大隅。五十三〔殘〕

倫圓(二二四)

長寛 二年

〔法橋〕〔抄〕

倫圓(二八三—二八五)

寿永 二年

〔法眼。寺。大納言。六十八。五十八。四五〕〔殘〕

元暦 二年

〔法眼〕。密。七十。六十〔殘〕

琳猷(二八三—二八五)

寿永 二年

〔法橋。山。助。六十。四十四〕〔殘〕

元曆 二年 「〔法橋〕。里。六十二。四十六〔殘〕

憐因(1011)

長和 二年 堅者。東。三論宗。

レ

令辰(911-912)

延喜廿一年 講師。去年十一月廿七日宣。法相宗。大

安寺。高橋氏。(六十四)

延長 六年 權律師。閏八月廿八日任。已講勞。右京

人。(七十三)

承平 元年 律師。十月廿七日轉正。(七十六)

五年 權少僧都。十月十二日任。(八十)

天慶 元年 少僧都。八月廿七日轉正。(八十三)

四年 入滅。八月廿一日。(八十六)

靈義(77)

宝亀 九年 少僧都。任東大寺別当。良興僧都弟子。

治五年。但補任中不見。

×靈賢↓壹賢

靈紹(913)

延長 二年 堅者。次。

靈祐(913)

寛平 四年 堅者。『維摩講師研学堅義次第』空祐。『三會

定一記』雲祐)

廉延(×廣縁)(913)

延長 元年 堅者。次。

廉縁(100)

寛弘 五年 研学。東。三。

廉實(1264)

長寛 二年 「權律師。二月入滅。山〔抄〕

練覺(1264)

長寛 二年 「法眼。九月入滅。仁和〔抄〕

蓮穩(915)

長徳 元年 「堅者。次」

蓮海(1014-1015)

長和 三年 權律師。十月廿八日任。天台宗。延曆寺。

御持僧勞。將軍信孝子。公忠□弁孫。(觀
命律師入室)。「慈念僧正弟子。天慶八
年得度受戒。永祚元年六月依檢校權僧

寬仁 二年 正尋禪奏為惠心院最初阿闍梨〔水〕
辭退了。〔下鎮西〕〔水〕

三年 「前律師。或本下向鎮西卒云々」〔水〕
四年 〔入滅。月日〕。前律師。

蓮昭(1031-1046)

長元 四年 權律師。十二月廿六日任。天台宗。千手

院。帶刀藤為能子。〔四十四。勝算僧
正入室〕。〔園城寺。大僧都明尊入室弟
子。長保元年四月一日登壇受戒。帶刀
藤原為善男也。為善者肥前守理能子也。
理能者正四位下伊勢守倫寧子也〕〔水〕

八年 律師。十二月廿六日轉正。〔卅八〕

長曆 二年 權少僧都。六月十八日轉任。〔五十二〕

永承 三年 〔入滅。二月十四日。六十一〕

蓮乘(993)

正曆 四年 堅者。

蓮尋(1104)

長治 元年 堅者。〔辭退〕。〔禪仁ニ替ル〕〔裏書〕

蓮聖(991-1005)

正曆 二年 堅者。〔四十〕

寬弘 二年 講師。四月廿四日宣旨。興福寺。法相宗。

〔五十四〕。〔臘四十一。真喜僧正資〕〔水〕

蓮泰(966)

永延 二年 堅者。

蓮丹(931-993)

承平 元年 權律師。十月廿七日任。真言宗。東大寺。

右京人。良淵氏。〔七十一〕
三年 入滅。六月十六日。〔七十三〕

蓮珍(1006)

寬弘 三年 研学。東大寺。三論宗。

蓮範(1031-1033)

治安 三年 堅者。興。〔廿六〕

長元 五年 講師。八月卅日宣旨。法相宗。興福寺。

〔參議右兵衛督。源氏。卅五〕。〔慶懷
辭退。四月廿日宣旨〕〔水〕

口

瑯慶(1131-1165)

寿永 二年 「律師。寺。民部卿。卅七」〔殘〕

元曆 二年 「〔律師〕。密。卅九」〔殘〕